

平成29年5月30日

青年部青年育成課

～後世に遺そう美しい沿岸防災林～ 復興支援ボランティア開催 報告書

5月27日（土）～28日（日）に仙台市名取市へ復興支援ボランティアを開催いたしました。

参加者は東京ブロック、関東ブロック、南関東ブロック、学研スタッフ（大学生）でバス1台を借り出発。新宿から出発したバスは廣池学園で合流し、合計47人が一路、まずは福島モラロジー東日本センターへ向かいました。

行きの道中、常磐道の常磐富岡ICから一般道・国道6号に入り、福島第一原発のすぐ横を通りました。6年を経た今でも帰宅困難地域として自分の家や会社の玄関前にバリケードがされて帰郷ができない現実に、バスの中では誰一人言葉を出すことなくその情景を目に焼き付けていました。

東日本センターでは、松林を管理する田中秀穂様（仙台事務所）からの講話をいただきました。本気で志を持ち、実行すれば物事が動くという、志を持つことの大切さを学びました。

その後の懇親会では、東北ブロックの皆様のおもてなしの数々をいただき交流を図りました。

東北の皆様が用意してくれたおいしい料理の中でも、とびっきり美味しかったカキの蒸焼きは、津波で自宅を流された体験を持つ大槻ご夫妻（東松島事務所）が今回、青年の交流のためにと地元・野蒜からご用意をしてくださったものでした。戸田ブロック代表と、須賀川の佐藤先輩のバンド演奏では、バスの中でも練習をした『I love you ふくしま』を全員で歌う、楽しい時間となりました。

2日目。仙台空港横の活動場所へバスで向かう中、大槻由季さんより3.11のご体験をお話いただきました。大槻さんは次男を絵画教室に行くため駅に送ったあと、地震と津波が来たとのこと。そして、探しに探してようやく山間部で止まっていた電車の中での息子さんとの再会された、との話は、地震・津波の恐ろしさと、親の愛情の深さが、バス乗車の青年の心に残りました。

その後、宮城県名取市での松林の環境整備ボランティア。東北ブロックの皆様も合流し75名で薄曇りの絶好の天気の中で作業をしました。千年先まで残るように、と祈りを込めての2時間でした。

バスはその後、名取市の閑上地区へ。8.5mの津波に襲来し911名の人命が亡くなったこの地区で慰霊のまことを捧げました。「あそこに私の家がありました」というガイドさんが「地震が来たらどうするか。お願いですから、普段からその時、どうするか家族で話し合ってください。それが命を救います！」と、震災に対峙した際の心がけを訴えて下さいました。

帰りのバスで、「今までは震災は他人事だった。自分自身がしっかり見て学びんだことを、伝えることが大切だと感じた」「被災地に心を寄せ続けたい」などの感想を伺い、この2日間の学びを共有することができました。

このボランティアをお迎えしていただいた東北の皆様、そして送り出してくださった皆様、参加してくださった皆様に心より御礼を申し上げます。以上、ご報告申し上げます。



関東・東京・南関東・学研・東北ブロックの皆様 合計75名



学園出発風景



学習もあり歌も歌ったバスの車内



大熊町の帰宅困難地域を視察



田中秀穂様(仙台 MC)による講話



懇親会では東北メンバーによるバンド演奏



東北の皆様と楽しく懇談をしました



宮城県名取市で松林の環境整備ボランティア



松のさらなる成長を祈って万歳三唱



911名が亡くなった名取市閑上地区を慰霊・視察